

令和3年度 公益財団法人山形市文化振興事業団事業計画

1 山寺芭蕉記念館

(1) 展示事業

① 特別展「芭蕉と江戸時代（仮称）」（9月中旬～11月中旬）

俳人・松尾芭蕉の感性を育んだ江戸時代の俳諧・読み本などの文化、絵画・工芸などの美術を紹介し、また江戸時代の社会の様子や旅の実態に迫ることにより、芭蕉文学の理解につなげてゆく展示とする。

② 企画展「ネコ・イヌとゆかいな動物たち（仮称）」（5月中旬～7月中旬）

猫や犬、その他古来より愛されてきた動物、ユニークな姿や生態の動物を表現した作品を展示して、美術表現の魅力と、作家の動物への観察眼と愛情を感じ取ることのできる展示とする。

③ 企画展「妖怪もののけ博物館（仮称）」（7月中旬～9月中旬）

江戸時代から現代まで、妖怪をテーマとして表現してきた文学・絵画などの作品を紹介する。

また、関連事業としてナイトミュージアムを開催して、妖怪の世界を体験する楽しいイベントとする。

④ 企画展「お雛さまと節句の飾り（仮称）」（2月下旬～4月上旬）

雛人形や武者人形など節句の飾りを展示し、その歴史を紹介すると共に、その工芸の美を鑑賞する機会とする。

(2) 普及啓発事業

① 第64回全国俳句山寺大会（7月）

俳句の普及と振興をはかるため、山寺文化保存会と共催し、名勝山寺の地で、芭蕉が訪れた時期に句会を開催する。

② 第13回山寺芭蕉記念館英語俳句大会（10月）

英語俳句を通して俳句の更なる交流促進、俳句文化の国際交流をはかるとともに、英語教育や文化、観光振興に寄与することを目的とする。

③ 第52回芭蕉忌俳句大会（10月）

俳句の普及と振興をはかるため、山形県俳人協会と共催し、山寺の地で芭蕉を偲び句会を開催する。

④ 第29回山寺芭蕉記念館文化セミナー（7～8月、3月頃）

広い視野で日本文化と歴史を見つめる講座を開設し、市民文化の向上をはかると共に新たな視点を提示する。複数回連続講座。

- ⑤ **山寺芭蕉記念館ボランティアガイド養成講座（仮称）（6～11月）**
「奥の細道」のボランティアガイドを育成する講座を奥の細道マイスターの会・山形大学と連携して開催する。
- ⑥ **芭蕉を偲んで投句しよう 一般の部・小中学生の部（通年）**
俳句の普及をはかるため、山寺芭蕉記念館内に投句箱を設置し、投句選を行う。
- ⑦ **市民茶会**
抹茶または煎茶の呈茶を行ない、茶道作法など、茶道文化の啓蒙普及をはかる。
- ⑧ **茶房 芭蕉堂（通年、但し市民茶会開催日を除く）**
抹茶の呈茶を行ない、茶道文化に親しむ一助とする。
- ⑨ **山寺感謝の茶会（11月頃）**
山寺地区民に対し、平素から山寺芭蕉記念館の事業に理解と協力を頂いていることへの感謝の意を表して呈茶を行い、茶の湯に親しむ機会とする。
- ⑩ **ICTを活用した情報発信**
インターネットを媒体として、ホームページやSNS（フェイスブック）を活用して様々な情報を発信する。広報活動や松尾芭蕉・山寺等に関して積極的に情報を発信する。
- ⑪ **『山寺芭蕉記念館だより（電子版）』の配信〔年1回〕**
事業の予告や報告、芭蕉及び「奥の細道」に関する情報の提供を行ない、山寺芭蕉記念館の活動の周知に役立てる。

2 最上義光歴史館

(1) 展示事業

最上義光を主とした最上家関係資料と山形城関係資料、山形に関わる文化財などを展示紹介しながら下記のテーマで一部コーナー展示を行う。

1) 企画展示Ⅰ「鐵の美 2021(仮称)」(4月-7月)

収蔵刀剣の公開を行い、武器であり美術品でもある日本刀の美しさを紹介する。

2) 企画展示Ⅱ「武士好みのデザイン(仮称)」(7月-10月)

当館収蔵の甲冑、刀剣、刀装具等から武士が好んだ意匠を紹介する。

3) 企画展示Ⅲ「収蔵名品展 屏風絵(仮称)」(10月-1月)

当館の収蔵資料の中から屏風や板戸絵等の名品を展示公開する。

4) 企画展示Ⅳ「最上義光と連歌(仮称)」(1月-3月)

当館の収蔵資料の中から最上義光ゆかりの連歌資料を公開する。

(2) 普及啓発事業

①歴史講座

1) こども講座

小学生を対象に最上義光を学ぶ機会をつくることによって、郷土史に対する関心と理解を深め、愛郷心の育成を図る。

②ボランティアに係わる事業

最上義光と最上家を啓蒙することについて歴史館とともに活動する市民が、ボランティアという形で歴史館のサポーターとなって、来館者の多様化するニーズに応え、きめ細かなサービスの提供を図るとともに、歴史館を核としたコミュニティーを創出する。

1) 「義光塾」(年3回)

最上義光や郷土の歴史について多角的に学習して、来館者に対して幅広い知識で接遇が可能となるようにスキルアップを図る。

2) 「現地研修会」(年1回)

最上家や郷土の歴史に関する史跡等を現地研修し、現地に赴くことによってボランティアが郷土史と文化財に対する知識と理解を深め、来館者に対してより質の高い接遇が可能となるようにスキルアップを図る。

③ICTに係わる企画と情報管理

インターネットを媒体とし、ホームページを活用して様々な情報を発信するとともに、企画から物販まで幅広く展開する。展示事業とリンクさせて、映像をはじめとする様々な情報をICTに係わる媒体を介して提供し、最上家や郷土の歴史、山形の文化遺産等の啓発も行う。

④『館だより』（年1回）

事業報告や考察、山形の歴史や最上家に関する情報を広く一般に提供し、最上義光歴史館の文化活動に対する理解を求めることを目的とする。ICT事業にリンクさせ、ホームページからのダウンロードや論文、コラム等は個別にホームページへの記事掲載も行う。

(3) 調査研究事業

①最上家関係資料・史跡調査〔継続事業〕

県内外に残る最上家等に関わる文書資料や文化財・史跡などの調査研究を進め、写真撮影等による記録保存及び目録作成、複写等の資料整備を行う。

②収蔵資料台帳デジタルアーカイブ化事業

当館所蔵の収蔵資料の台帳整備とデジタルアーカイブに向けた電子化作業を行い、調査研究の成果を随時記録し発信するとともに情報の共有化を目指す。